



留学生、日本語で母国紹介

11月21日

11月21日、下妻ロータリークラブ(江田治雄会長)主催で留学生たちが母国の文化や生活を紹介する「こんにちワールド」が下妻小5年生を対象に行われました。

マレーシア、ケニア、中国の留学生たちが講師を務め、それぞれ1クラスずつ受け持ち、流ちょうな日本語で母国を語りながら、通貨、街の様子、名物、伝統などを幅広く伝えていました。児童も異国のイメージを膨らませ興味深そうな表情を見せ「いろいろなことが知れて楽しかった。行ってみたいと思った」と話し、授業後には給食を取って交流を深めていました。



ケニアを紹介するキャロラインさん

20年後の自分へメッセージ

11月3日

11月3日、豊加美小学校体育館で同校児童や地域住民など約500人が参加して20年後の自分たちへ向けたメッセージをカプセルに納める豊加美令和元年タイムカプセル埋設式が行われました。

式典では、同校の創立130年事業として昨年8月に卒業生などにより開封された30年前のタイムカプセルに各学年の児童代表らが自分たちの手紙をカプセルに入れていました。

6年生の小久保実咲さんは「20年後みんなでここに集まって、明るく話せるのが楽しみです」と話していました。

タイムカプセルは20年後の豊加美小学校創立150周年に開封される予定です。



タイムカプセルに手紙を入れる児童



華やかな菊を楽しむ来場者(大宝八幡宮)

香りゆたかな菊 華やかに

11月1日-25日

下妻の秋の風物詩となっている恒例の「第34回下妻市菊まつり」が、大宝八幡宮の境内で11月1日から25日まで開催され、菊の愛好家や七五三の晴れ着姿の参拝者などで賑わいました。

会場には、下妻市菊花会(大月詮雄会長)の会員が丹精込めて育てた菊花約500鉢が展示。花卉が大きく盛り上がる「厚物」、管状に流れるように花弁を広げる「管物」、菊花を組み合わせる富士山や五重塔などをかたどった「特作花壇」など、香り立つ華やかな作品が来場者を楽しませていました。また、「さん歩の駅サン・SUNさぬま」の広場ステージでも同会による菊花約150鉢が展示され、大輪の菊花が秋を彩り砂沼湖畔を訪れた人を楽しませていました。



食事を楽しみながら熱戦を見守る来場者

肉料理食べながらeスポーツ観戦

11月4日

11月4日、下妻e-sports実行委員会(内山学委員長)は「Waiwaiドームしもつま」で「第2回肉祭り&下妻eスポーツ大会」を開催。出場選手たちがパズルゲーム「ぶよぶよ通」で自慢の腕を競い合いました。会場には肉料理をメインに18の飲食店の出店もあり、食欲をそそる肉汁の匂いが漂う中、家族連れなどでにぎわいました。

eスポーツ大会には、一般の部に18人、子どもの部に10人が参加。競技はステージ上でパソコン画面を挟んで対戦し、その様子が200インチ大型ビジョンに映し出され、来場者は肉料理などを飲食しながら熱戦を見守っていました。

仮装キッズパレード楽しむ

10月31日

10月31日、下妻市母親クラブ主催の「市役所ハロウィンパレード」が市役所本庁舎2階で開催され、同クラブの親子約30組がハロウィンを楽しんでいました。

子どもたちは、シンデレラやカボチャなど思い思いの格好に変身し、財政課、消防交通課、秘書課、企画課の4課を訪問。市職員からカードにハロウィンにちなんだお化けのスタンプなどをもらいながらスタンプラリーをして、スタンプを4つ集めた子どもたちには同クラブからお菓子が配られていました。「市役所の2階はなかなか来ないので、こーやって笑顔でパレードできてうれしい」とママたちは話してくれました。



仮装姿でスタンプラリーをする子どもたち

親子で楽しむ人形劇

11月9日

11月9日、市図書館で「図書館まつり」が開催されました。朗読者が「目の代わり」となって指定された資料を読む対面朗読見学体験や本のリサイクルフェアのほか、小林百子さんの人形劇「ひとつぶはせんつぶ」が披露され親子連れなどが図書館を親しみながらまつりを楽しんでいました。

人形劇では、畑仕事が好きなたヌキの話「ひとつぶはせんつぶ」を小林さんが役柄に合わせて声色を変えながら1人で演じていました。たヌキが変化するたびに「次は何に化けるの」と子どもたちから声が上がっていました。参加女性から「親子で一緒に過ごす素敵な時間になりました」と感想を話してくれました。



人形劇を楽しむ親子ら

台風被害の花畑に子どもたちが種まき

11月10日



ポピーの種をまく子どもたち

10月の台風19号で冠水した鬼怒フラワーラインの花畑で、同河川敷を管理運営する花と万人の会の会員をはじめ、青龍楽校少年団や地域住民など約150人がポピーの種まきに汗を流しました。花畑4,400㎡にまいた種は、シャーレーポピーとカリフォルニアポピーの2種類で50万本分。

今年の種まきは、冠水の影響で約1か月遅れの作業。台風後の河川敷は、流木などが散在していましたが、早急に花畑を種がまける状態に戻すため、週末ごとに同会スタッフが集まり、さまざまなごみを懸命に除去。児童たちは、台風被害からの復興を願いポピーの種をまいていました。



祭囃子を披露する会員たち

伝承される心の響き

11月10日

11月10日、伝統芸能の維持継承を目的に活動をする下妻市伝統芸能保存連合会(大塚武彦会長)主催の「伝統芸能とオペラの集い」が下妻市文化会館で開催されました。

集いは2部構成で開催され、第1部では同会加盟団体の祭はやし、ゲストの天神はやし(常総市玉小学校)と東京助六太鼓の演奏が披露され、各地域の伝統芸が披露されるたびに大きな拍手が送られていました。第2部では、「鶴の恩返し」を戯曲化したオペラ『夕鶴』などが披露され会場を魅了していました。

日本と西洋の文化が一体となった会場では、音楽による心の継承がされていました。